学校番号	３０９

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説　日本史Ｂ」（山川出版社）						
副教材等	「詳説日本史図録」（山川出版社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年生で２単位、３年生でも２単位の日本史Ｂを履修しつつ、３年生選択科目としてさらに３単位の日本史演習を学習する。教科書１冊の通史を学習し、大学入試問題演習を行い、国公立センター・難関私立大学受験に対応した授業を行う。各時代の政治・経済・文化等内容を整理して理解し、入試問題に適応できる実力の養成に主眼を置くので、知識の定着のための反復した家庭学習が必要となる。

２　学習の到達目標

日本史の江戸時代ペリー来航以降の近現代史の修得に力点を置いた授業を展開し、随所に歴史史料の解釈や説明、歴史用語の論述等を交えながら、歴史的判断力・思考力を培い、国際社会を主体的に生きる日本国民としての自覚と責任を養う。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史に対する意識・関心と課題研究意欲を高め、主体的に学習する態度・姿勢を身に付ける。	歴史用語や史料の持つ説明や課題を、質疑応答の中から相手に的確に伝える表現力、伝達力を持つ。	歴史用語や史料の持つ説明や課題を、板書を通じてノートに記入し、自分の意見を表現、論述する力を身につける。	日本史の通史を学び歴史用語や歴史史料の読解力を身に付け、知識の定着をはかる。教科書や史料を読み取り、図表や地図の持つ意味や情報を的確に理解する。
評価方法	①学習への意欲的な姿勢や態度 ②定期考査や小テストでの理解度 ③ノートやプリントへの記入状況	①授業説明への聞く姿勢・態度 ②生徒への質問に対する回答 ③学習への取組む姿勢	①ノートやプリントへの記入状況 ②定期考査や小テストでの理解度 ③学習への取組む姿勢	①定期考査や小テストでの理解度 ②ノートやプリントへの記入状況 ③学習への取組む姿勢 ④教科書や史料集の読み取り状況
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	開国と明治維新	開国と江戸幕府の滅亡 明治維新 富国強兵と殖産興業 文明開化	○	○	◎	◎	ａｂ：開国と江戸幕府の滅亡、明治維新の過程に興味を持ち、意欲的に学習に取り組んだか。 cd：教科書、史料の読解から、幕末から明治への動きを理解できたか。	a:授業態度 b:発問応答 c:ノート提出 d:教科書・史料の読解、定期考査・小テスト
	立件国家の成立	自由民権運動 明治憲法と初期議会 条約改正 日清・日露戦争 産業革命と社会の変容 明治文化	○	○	◎	◎	ａｂ：自由民権運動、２つの対外戦争、条約改正を学び、近代国家成立過程に意欲的に学習したか。 cd：教科書、史料の読解から、近代国家への歩みを理解できたか。	a:授業態度 b:発問応答 c:ノート提出 d:教科書・史料の読解、定期考査・小テスト
2	第一次大戦と日本	桂園時代と護憲運動 第一次世界大戦 ワシントン体制と国際連盟 昭和恐慌と満州事変 経済・社会の変容と市民文化 日中戦争と経済統制 第二次世界大戦の勃発 三国同盟と太平洋戦争	○	○	◎	◎	ａｂ：大正期～昭和前半の政治史を学び、国際社会の中の日本の位置づけや軍部の台頭を意欲的に学習したか。 cd：教科書、史料の読解から、国際社会における日本の立場を理解できたか。	a:授業態度 b:発問応答 c:ノート提出 d:教科書・史料の読解、定期考査・小テスト
	第二次大戦と日本	占領下の日本 冷戦の開始と日本の復興 55年体制 経済復興から高度成長へ 激動する世界と日本	○	○	◎	◎	ａｂ：敗戦後の占領下の日本を学び、経済復興と国際社会での新たな日本の役割を意欲的に学習したか。 cd：教科書、史料の読解から、経済復興から高度成長における日本を理解できたか。	a:授業態度 b:発問応答 c:ノート提出 d:教科書・史料の読解、定期考査・小テスト
3	入試問題の演習	日本史全般の総復習 入試問題の演習と解説	○	◎	◎	◎	ａｂ：入試問題を積極的に解くことで、意欲的に知識の定着学習を行えたか cd：教科書、入試問題の演習から、日本史全体の流れを理解でき、実践力が身についたか。	a:授業態度 b:発問応答 c:ノート提出 d:教科書・史料の読解

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。